

名古屋市

西部地域療育センターだより

正面壁画「友情」より

No.28

開設20周年を迎えて

所長 鷺見 聡

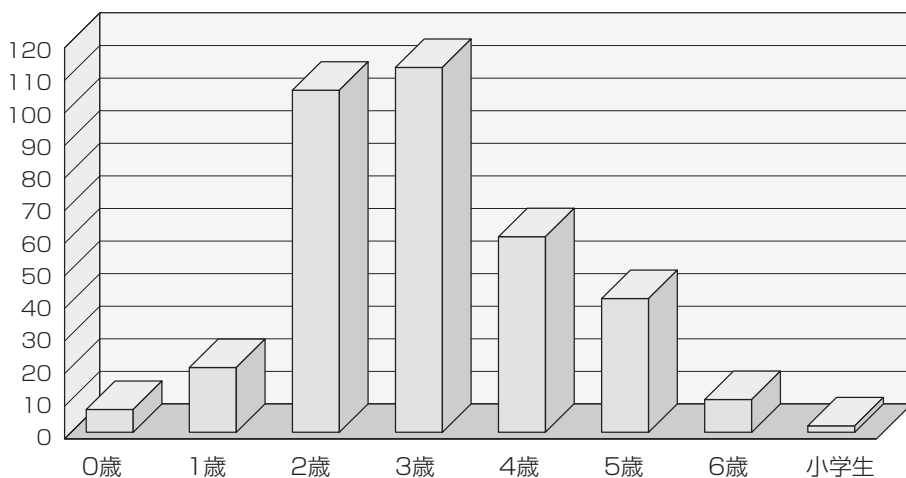
今から20年前、平成5年4月に、名古屋市西部地域療育センターは名古屋市初の療育センターとしてスタートしました。時の流れは速いもので、開設当時にセンターを利用していたお子さんたちは、既に成人しております。これまでの年月、療育センターは、実に数多くの方々に支えられてきました。この20年間に関わってくださったすべての方々に、こ

の場を借りて御礼を申し上げます。

時の流れとともに発達支援に関する状況も大きく変わりました。ここ西部地域療育センターも、時代のニーズにあわせて、さらに充実した地域療育を目指す必要があると思っております。それとともに、この地域に暮らす人々すべてが明るく暮らせる地域社会が実現することを心から願っています。

平成24年度新規相談の概要（1）

年齢別新規相談件数



総件数
357件

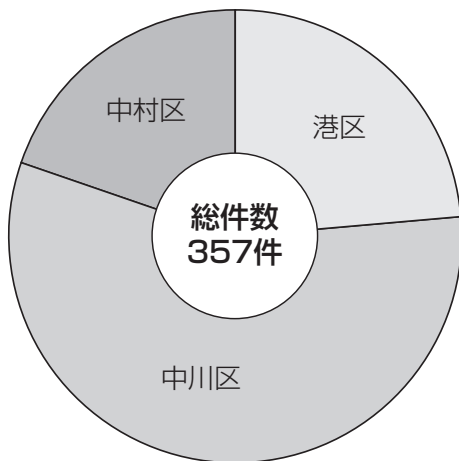
■年齢別新規相談件数

(単位：件)

年齢	就 学 前 児 童							小学生	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳		
計	7	20	105	112	60	41	10	2	357

平成24年度新規相談の概要（2）

区別新規相談件数



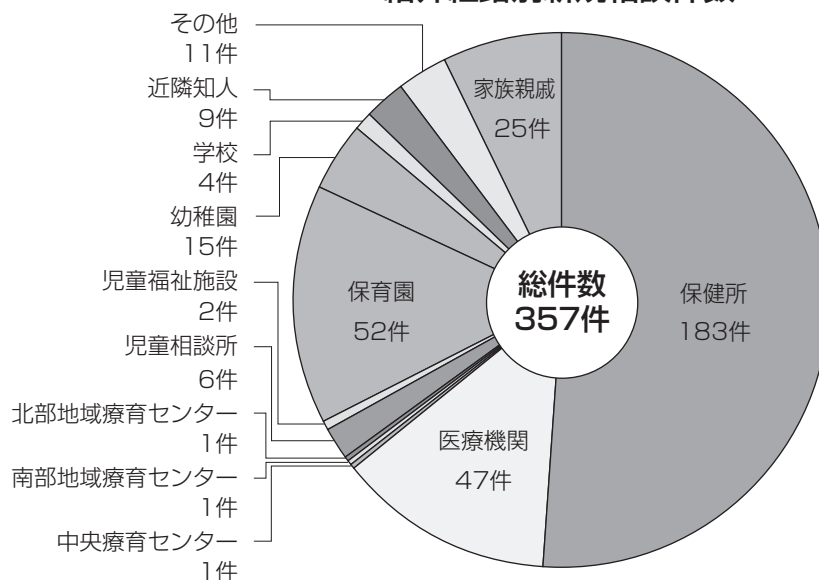
■年齢別・区別新規相談件数

(単位：件)

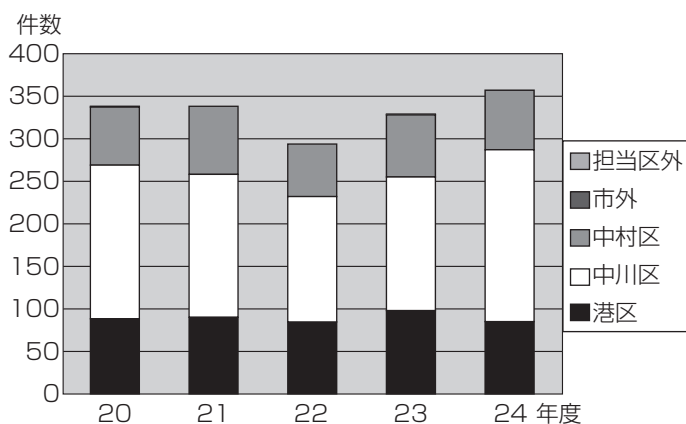
区	就 学 前 児 童							小学生	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳		
中村区	3	4	21	17	14	10	1		70
中川区	3	12	66	64	32	19	4	2	202
港 区	1	4	18	31	14	12	5		85
計	7	20	105	112	60	41	10	2	357

平成24年度新規相談の概要（3）

紹介経路別新規相談件数



過去5年間の新規相談件数の変遷



(単位：件)

区	年度	20	21	22	23	24	計
中村区		68	80	62	73	70	353
中川区		180	168	148	157	202	855
港 区		88	90	85	98	85	446
市 外							
担当区外		1			1		2
計		337	338	295	329	357	1656

「関係性の育ちから見た自閉症スペクトル」

名古屋中央療育センター所長 牧 真吉 児童精神科医
（現 名古屋市児童福祉センター 所長）

自閉症スペクトルという概念が生まれることにより連続して移行しているという理解が生まれました。これを関係性の発達の遅れと理解することでいろいろの違いを持った自閉症の子どもを理解することができ、対応を考えることができます。そして、五感でキャッチされた情報を篩い分けるフィルターが脳の最初の段階にあると考えるとさらにわかりやすくなります。理解と対応が結びついた仮説を使っていわゆる発達障害の話をしてもらいます。

（牧先生の略歴）

1978年に名古屋市立大学医学部を卒業。精神科医として大学病院・総合病院等に15年ほど勤め、1995年より児童福祉センターの相談課で勤務。2010年より中央療育センター所長。

私は学生時代に大学病院で自閉症児のプレイセラピーをやっていました。その頃には、行動療法が大半でしたが、名古屋市立大学病院ではプレイセラピーをやっていて、そういう意味で「脳の障害」といわれる説にずっと疑問を抱きながら、やってきた医者です。

児童福祉センターでは、私は非障害部門に配置されたので、自閉症を診ることができなかった。「障害の子たち、自閉症を自分はやってきたんだけど…」というのが始まりでしたが、当時は発達障害という概念はなく、障害と非障害を分けていたのはIQでした。おかげで、いわゆる高機能自閉と言われるお子さんたちを次から次

へと私は診ることができ、そのお子さん達の発達に付き合うことができました。療育センターに移ってから、私自身が親御さんに説明するために、使っている仮説についてお話しします。

自閉症スペクトルと関係性の発達

虹のスペクトルという言葉があるように、「スペクトル」というのは「連続体」、という意味です。虹の色は、赤・橙・黄・紫という風にきれいに分かれていくわけではなく、段々段々とずれていく、連続しているわけです。連続して、少しずつ、少しずつ変っていく。統計学的には正規分布、平均が真ん中にある、平均からバラツキがある。知能もこういう分布をするわけです。ただ、知的な障害に関して、バラツキもあるけれども、どうしても病気、何らかの原因があって遅れが出てくる、ということもある。

滝川一廣先生（1980年代に児童福祉センターに勤務・現学習院大学教授）が、「関係性の発達の遅れ、って考えたらどうだろうね」言ってくれました。滝川先生によると、私たちには、この世界をどう見ていくかという「認識の軸」と、この世界とどう関わりを持つかという「関わり

たとえば「心の理論」。サリーとアンの課題、高機能の人たちは、10歳くらいでみんなクリアしていく。なぜできるようになるのか。それは、発達してくるからです。決して固定しているものではない。

関わりでの発達と認識の発達があって、両方均等に発達していくと、定型発達って言い方になります。関係性の発達の遅れはそんなにないけれども、認識の機能の発達がなかなか上手くいっていないよ、っていうのが精神遅滞（知的障害）です。それに対して、認識はちゃんとできるんだけど、関係性がうまく取れないよ、っていうのが高機能自閉。どっちも上手くいってないのが、いわゆる遅れのある自閉症。きれいに分かれているわけではなく、どの位置にあるかによって、いろいろ差がある。

知能検査で測っているのは、認識の領域です。関係の領域は測れない。私とあなたの間にできた関係は、あなたの持つ関係性とは言えない。絶対的なものではない。関係性の発達は、その持っている性質上、検査として数値を示すことはできないんです。

脳のフィルター

私たちは、どうやってコミュニケーションしているのだろう。私たちが、どのくらい言葉を使って人とコミュニケーションしているかというと、言葉の意味として私たちが用いているのは、せいぜい3割くらい。言葉の表情（声・イントネーション・リズムなど）が言葉に付随して2割くらい。そして表情、身振り。私たちは、言葉じゃない作業をしている。コミュニケーションというのは、その全部です。

私たちは、人の顔の区別はできますが、サル

時に、サルの顔からほとんど情報をキャッチしていません。捨ててるんです。でも、人の顔を見る時には、ものすごい情報をとっている。言葉になってない情報をべらぼうにとっています。情報をキャッチしているから、人の顔から感情が伝わってくる。

私たちがどういう情報をキャッチしているかというと、キャッチする情報と捨てている情報とあるんです。どういう情報をキャッチするのか、私たちは、ものすごく選択してる。ところが、選択していると思っていない。この情報とこの情報とこの情報があって、後は捨ててる、なんて意識は全くない。絵とか写真でだんだん変わっていくところを探してくださいというAHA体験。みんなが見て自然とキャッチする情報をキャッチしてたら、あれ見えないんですよ。みんながふるい落としちゃうような情報を書き換えれば、そう簡単に見つからない。落とす情報とキャッチする情報と、フィルターが、かかっているんです。例えば、今ファンの音が聞こえるでしょ。でも、私たちはファンの音に気がついていない。脳が勝手に働いて、捨てられてる。外界から入ってくる情報がまず入ってくる一番最初のところにフィルターがあって、このフィルターがどう働くかによってキャッチするところと、捨てちゃうところが起こっちゃう。

後ろから声をかけても全然振りむいてくれない子。それ、ファンの音だって思えばいい。私たちは、彼らがこだわるおもちゃを見て、「別にこれとこれと一緒にじゃん、どこが違うの」って言っちゃう。すごい細かいところが違ったりする、そういう情報を、私たちは捨てているからわからない。

キャッチした情報は、入ってきちゃう。キャッチしない情報は、捨てられる。例えば、ゴウゴウ滝の音がしていても寝ちゃうけど、近くでヒ

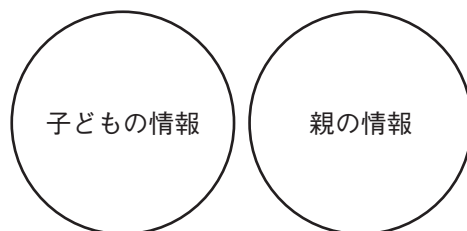
ソヒソ話されると気になって寝にくい。デシベルで測ったら、よっぽど滝の音の方が大きくて、人の声はかすかな音なのに、気になる。それは、やっぱり脳のフィルターが働いちゃうから。それが、ちょっとフィルターが違っていたら、どうなるか。私は、脳の中のフィルターという仮説をとっています。

脳のフィルターと関係性の発達

おなかの中にいる赤ちゃんの表情が、お母さんの声の調子によって、変わるよってデータがあります。生まれおちてきた時から、赤ちゃんは、もうお母さんとの関係ができています。生まれてきた赤ちゃんをお母さんの胸の上に乗せてあげて、お母さんが話しかけると、子どもじっとお母さん見ていますよね、視神経が発達してないから、たいして見えていないのに。お母さんに乗っけるのは、子どもがかわいいという体験「私が話しかけたらにこってしてくれる」とか、何か反応してくれるっていう体験を最初にきちんとしてもらうため。実際にそんな反応をしてくれます。ただし自閉の子はそうはいかない。つまりおなかの中にいる時の発達からやっぱりずれてきているんだらうな、って私は考えています。

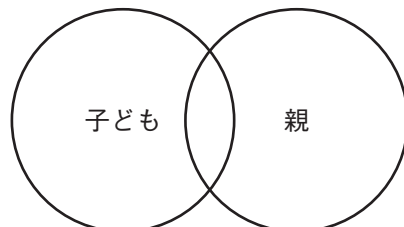
脳のフィルターの仮説を図で描いてありますが、定型発達の子は生まれた直後で②から始まると思っています。①からは始まらない。ところが、関係性の発達が遅れていると①から始まる。定型発達の子は、概ね6か月くらいで④くらいまでいっちゃう。乳幼児精神医学の研究で、お母さんが赤ちゃんを甘えさせている時に、ビデオでお母さんと赤ちゃんの表情を撮る。この二つの表情を並べて表示すると、二人の顔が全く同期して動きます。6か月で、そのくらいも

①



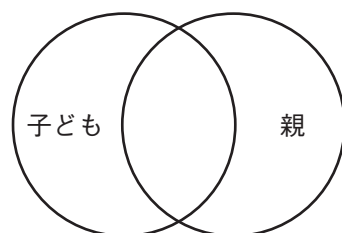
情報が全くすれ違ってしまっている。

②

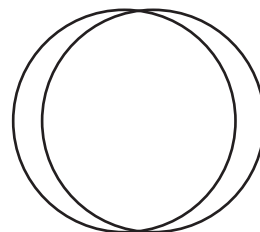


少しだけつながるところができる。

③



④



う共有している。

言葉の発達にばかり気をとられるんだけど、私は「言葉が出てくる前に概ねわかりましたか？（大人の言うことがなんとなくわかる、目でお話できましたか？）」と聞きます。それができているってことは、同じ情報を共有しているわけです。もう一つ、授乳の時の話を私は良く聞きます。人間とサルの赤ちゃんの授乳の時の違い。サルの赤ちゃんは一心不乱で飲むそうです。途中で飲み終わるなんてことありえない。でも、人間の赤ちゃんって遊び飲みが特徴。ちょこちょこ飲んで、あっち見、こっち見、なかなか一気に飲んでもくれない。たまに「手がからなかったです、一気に飲んでくれて。飲み終わったらもう寝てました。」っていう赤ちゃんが

私のところにきます。でも、普通の赤ちゃんはそうじゃない。飲みながら、こっち見たり、お母さんの顔を見たり。そうしながら、どんどん情報をキャッチする。目と目が合うようになると、じーっと見てから、ふっと目をそらすと、赤ちゃんはそっちを見るでしょ。共同注視って言い方をしますが、同じ情報をキャッチするようになっているわけです。違うところをみたら同じ情報はキャッチできない。

自閉症スペクトルと脳のフィルター

フィルターって考えてみて、フィルターがほとんど一致してきて同じ情報をキャッチしたら、言葉なんてなくなってしまう。言葉というのは、お互いに共有してわかっていることに、ついたものです。そして、共有していないことを私たちは言葉で表現できない。

私がやっているのは「どういう情報をキャッチしているか探そう」ということ。彼らがキャッチしているところの情報のところへ私たちが情報を出してやれば、彼らはキャッチします。マーク好きな子に、マークをぴっと出したら、情報として入るでしょ。私たちがキャッチする情報をキャッチしなさいって言っても無理です。「こだわり」。彼らがそのことに関してものすごい情報を取っている。私たちが人の顔の違いと思うように、彼らは、おもちゃ一つ一つにきっと顔を見ているかもしれない。

一般的に、彼らは「人に関する情報」は、あまりキャッチしていない、「物に関する情報」はよくキャッチしてます。私たちがキャッチする情報は、人に関する情報が圧倒的に多い。物に関しては意外ととっていない。でも、自閉の子たちはそうじゃない。人じゃない情報をいっぱいキャッチしてる。これとこれとの違いは私た

ちにはわからなくなっちゃって、彼らはわかる。

私は、自閉の子どもたちは「彼らがキャッチしている情報に従って反応している」そして「この反応自体は全然歪んでない」と思っています。だから、彼らの反応について、私だったらどういう状況の時にこの反応を起こすだろうな、って考えると、彼らに入っている情報の近いところに想像で入っていけるかもしれない。

自閉症スペクトルと関係性の育ち

コミュニケーションって言うのは、キャッチした情報でしかできない。全然ずれてるとホントに大変、全くわかんないです。私は「そうは言っても重なっていく、発達だよ」って考えています。少しずつ少しずつ重なってくれる。全然ずれている時は、わからなくて苦労します。この時にコミュニケーションできるようになるなんて、あまり考えない方がいい。でも、ちょっとずつ重なってくる。どこかで、交流ができる部分ができてくる。「ここはわかる、でも、こういうこと言うと全然通じてない」。この時に、なんとかして教えようと思うと間違い。この子に「なんとかこのことをわからせたい」って、その情報は「入っていない」のだから、言われたってわけがわからない。だったら交流できる情報で一生懸命交流する。「こんなこと言ったらすごく通じる」「こんなこと言ったらすごく喜んでくれる」、そのチャンネルをどんどん使う。そうするとね。何が起きるかという、交流できると嬉しいのよ。交流できて嬉しいと、わかってくれる人への興味が沸く。その結果、その人に関する情報をキャッチしてくれるようになる。逆に「こういうこと教えないかん」って、一生懸命やってると、「この人見るとやっぱりやだ」って思う。すると、その人の情報はますますキャッ

チしなくなる。一番初めは、言葉じゃない。いかに、私たちと共有できるか、わかってもらえることの楽しさをまず体験してもらいたい。

彼らが見ていることは、私たちは全然わかんない。で、私たちが言ってることは彼らにとってチンプンカンプン。でも、段々段々重なってきます。ちょっと重なってきたあたり。お母さんが言ってくれるのね。「昔は鉄砲玉でした。私のことなんか見もせず、びゅーっと走って行っちゃう。最近ちょっと変わってきた。後ろ見ながら、ばーっと走って行くんだけど、後ろ振り向いて、ついてくるかな、って確認してから走ってくようになりました。」「お母さん良かったね、だいぶ変わってきたじゃん。お母さんのこと、少し気になりだしたよね。前が鉄砲玉だったもんね。最近ちゃんと、黙って後ろ向いて、すごいよね、一度に欲張らなくてもいいよ。まず、ここが第一歩よ。」少しずつ重なってきたよね。面白いことに、かなり重なってくると、子ども達って、べたべたし始めます。お母さんのそばに来て、ねえねえとか、見て見てとか、言うようになる。甘えられるようになると、その頃には褒められると嬉しい、褒めて誘導できる。「お母さんこうやってくれると嬉しいな」と言うと、のってくれる。

どこが今育ってきているのか、私たちの側がきちんと気がついて、順番に伸ばしていく。発達を促すことはできません。発達につきあうことはできるし、発達の邪魔することはできます。できもしないことを「何でこれができないの」と言うと、それだけでやる気がなくなるから、発達できなくなる。子どもが発達していくのに付き合っていたら、その子どもなりに発達していつてくれる。ゆっくりみてあげていい。わからない時もある。「わかる時とわかんない時があるよ」というような感じ。ずれてること。ず

れてることをなんとかしようと思わなくてもいい。「ずれていない、合っているものを共有できること」をとにかく大事にしていきましょう。

親がどう抱えられているか

もうひとつ大事なこと。子どもに安心して関われる環境が用意されてなかったら、どんなにすぐれたお母さんでも関われません。だから、親御さんができなかった時、その背景に何があるか。必ず聞いてください。とってもつらいお母さんは自分が上手く育ってない。認められて育ってなかったお母さんに何が起きるかっていうとね、子どもがね、ふっと横向いただけで「私のことバカにした」って思うんです。人によってはそう感じちゃうんです。私は、自閉の子がキャッチしている情報はこんなに違うんだよ、と言いました。お母さんだって、どういう情報をどうキャッチするか、全然違う。親御さんが、どういう中で育ってきて、どういう風に思っているのか、私たちがキャッチしていないと、いくら良かれと思って言ったって、相手にとっては傷つけられた言葉になることいくらでもあります。お母さんも、キャッチしてないと感じられない。「お母さんさえ上手くできたら」じゃない、「このお母さんはどういう風に抱えられているか」ってところも併せてみてください。どうやってもうまいかないケースってというのは、実は、親御さんが

上手く抱えられていない。そこを支えようと思って関わっていけば、いくらかわっていくことができます。



平成25年度 西部地域療育センター連続講座のご案内

第1回 講演会

講 師 西部地域療育センター嘱託医 大矢 公江（小児科医）
「子どもの育ちに困難を抱えた保護者への支援
～叩かず、甘やかさず、子育てする方法：スター・ペアレンティングの取り組み～」

日 時 平成25年7月5日（金）PM3：30～5：00

会 場 西部地域療育センター1階 多目的ホール

対 象 保育園、幼稚園、小学校、療育施設、関係機関の職員のかた

..... 講師からのコメント

近年、発達障がいのお子さんを育てる保護者への支援として、ペアレント・トレーニングが注目されてきています。スター・ペアレンティングは親も自分を大切にしながら、叩かず、甘やかさず、そして楽しみながら子育てするための方法です。子ども一人一人の個性、親御さん自身について、理解を深めながら、様々な養育スキルを学ぶうちに、子育てのストレスが少しずつ減り、親子の関係が心地良いものにゆっくりと変化していきます。講演ではその内容をご紹介します、一部と一緒に体験していただく予定です。

第2回 通園部一日体験

日 時 ①平成25年8月22日（木）AM9：00～PM5：00
②平成25年8月23日（金）AM9：00～PM5：00
③平成25年8月26日（月）AM9：00～PM5：00
④平成25年8月27日（火）AM9：00～PM5：00

会 場 西部地域療育センター内通園部「キララ」

対 象 民間保育園・幼稚園の職員のかた

療育グループ体験

日 時 ①平成25年7月23日（火）AM9：00～12：00
②平成25年7月30日（火）AM9：00～12：00
③平成25年7月31日（水）AM9：00～12：00

会 場 西部地域療育センター療育グループ

対 象 民間保育園・幼稚園の職員のかた

ボランティア募集

保育場面での手助け（室内の活動、園外への散歩など）
教材づくり
保護者活動時における療育児のきょうだいの保育
センター行事（運動会、夏祭りなど）のお手伝い
その他、園の環境整備など

■お問合せ・お申込み■

名古屋市西部地域療育センター